

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	岐阜市立恵光学園		
○保護者評価実施期間	2024年12月13日		2024年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50人	(回答者数) 46人
○従業者評価実施期間	2025年1月14日		2025年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	23人	(回答者数) 23人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月1日		

### ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子療育の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の療育や保護者との懇談を通して、保護者が子どもの発達状況や特性を知り、関わり方を学び、育ちを感じることができる機会を提供している。</li> <li>子育てのヒントや進路選択などを学ぶ機会として、ペアレント・トレーニングや学習会を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通園児の保護者に向けたペアレント・トレーニングの内容を充実させる。また、保護者学習会や保護者同士が交流する機会の充実を図っていく。</li> </ul>
2	療育の専門性	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで培ってきた療育ノウハウを個々に展開するため、児童発達支援計画(個別支援計画)は、「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域の視点で、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」を設定し、個々の発達段階を捉え、個別懇談で保護者の方の願いを踏まえ作成し、共通理解を図り日々の支援を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の療育の中での行動観察だけでなく、発達検査以外のアセスメントツールを用いて客観的に子どもを理解し、支援に活かすことができるようにする。</li> </ul>
3	地域移行、地域支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の保育所(園)、幼稚園、こども園への移行通園、親子体験教室(きらきら教室)開催、児童センターでの出張相談会、市内保育所(園)等の療育実習の受け入れ、岐阜県発達障害支援センターと連携し、ペアレント・トレーニング指導者養成などの取り組みを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の児童発達支援センターとして地域の療育力向上を目指して事業拡大を図る。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設の老朽化	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設は築40年経過している。壁、床、トイレ等修正はしているが、老朽化の影響が大きい。児童発達支援センターの指定基準は満たしているが、親子療育で活動するには、十分な広さといえない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な修繕や設備の更新を計画的に行っていく。</li> </ul>
2	毎日の親子通園	<ul style="list-style-type: none"> <li>週3日通園することを基本とした運営をしているため、多様なニーズに対応していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様なニーズに対応するため、週1日通園コースを新設し親子療育の受け入れを拡大する。</li> </ul>
3	きょうだい支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状は、年1回のファミリーフェスティバルの参加のみで充分支援ができていない。</li> <li>きょうだいの保育所(園)の入所相談や保護者からの子育てに関する相談は受けていたが、直接きょうだいに関わることをしていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>きょうだい支援やケアという視点を持って、学校の夏休み期間を利用して、一緒に活動に参加したり、他のきょうだいの交流ができる機会を作っていくことから始め、支援につなげていく。</li> </ul>